

全国救急隊員シンポジウムが神戸市で開催

救急企画室

1. 全国救急隊員シンポジウムとは

「第25回全国救急隊員シンポジウム」が、神戸市消防局と一般財団法人救急振興財団との共催により、1月26日（木）と27日（金）の2日間にわたり、神戸市（神戸国際展示場・神戸国際会議場）で開催されました。

この「全国救急隊員シンポジウム」は、救急業務の充実と発展に資することを目的に、全国の救急隊員や消防職員、都道府県や消防学校の職員、医療従事者等、救急業務に関係する者が一堂に会し、実務的観点からの研究発表や意見交換を行っているもので、平成5年より毎年1回、一般財団法人救急振興財団と開催地消防本部とで共同開催されており、今年で25回を数えました。



【開会式】

2. 今回のシンポジウムの内容について

今回のシンポジウムは、平成6年の第2回全国救急隊員シンポジウム以来、神戸市で2回目の開催となりました。「阪神・淡路大震災」から復興を遂げた神戸から、メインテーマである「救命の未来をデザインする～『みなとまち神戸』から飛躍への道しるべを～」をコンセプトに、大規模化、多様化する「災害」への対応や救急隊の直面している課題に向けた取組などが、全国へ向け発信されました。

基調講演では、「経験から学ぶ、未来につなげる」というテーマで兵庫県災害医療センターの中山伸一先生、東北大学病院の石井正先生から消防と医療の連携や災害時の備えについて、貴重な講演をいただきました。

シンポジウムの内容は多岐にわたり、救急隊員の再教育、処置拡大、救急隊員が取り扱う個人情報、救急救命士のスキルアップトレーニングなど、救急隊員にとって、どの内容も関心の高いものでした。



【教育講演・「法律問題を知る」】



【スキルアップトレーニング】

また、緊急報告として「相模原市における社会福祉施設での集団救急対応」について、救急隊員等の活動状況や医療機関側の対応等について報告され、多数傷病者事案での多機関連携について考えさせられる内容でした。

市民公開講座では「救急車がくるまでに」と題して、救急車が到着するまでの応急処置などについて講演され、リオデジャネイロパラリンピック陸上競技・走り幅跳び銀メダリストの山本 篤氏を交えて、心肺蘇生法の実技体験があり、多くの市民が参加され、関心の高さが伺えました。



【市民公開講座】



3. 地元関係者の熱心な取組

当日は、兵庫県内はもとより、全国各地から約7,800名（2日間延総人数）の関係者が来場し、盛大なシンポジウムとなりました。これもひとえに、主催者である一般財団法人救急振興財団や神戸市消防局を始め、地元医師会など関係各機関の皆様が一致協力してシンポジウム運営に当たられた御尽力の賜物であるといえます。今後もこのシンポジウムが救急業務の更なる充実と発展に資するものとなることを期待しています。

なお、次回の「第26回全国救急隊員シンポジウム」は、平成29年11月21日（火）と22日（水）の2日間、千葉市において開催されます。

問い合わせ先

消防庁救急企画室 大坪
TEL: 03-5253-7529